

創（傷口）処置について

今回、けがをされて創（きずぐち：傷口）がある方へ、ご自宅での処置方法について説明させていただきます。

消毒 傷口の処置は約 10 年くらい前までは毎日消毒液で消毒して、包帯交換することが主流でした。しかし、消毒液とは雑菌をやっつけるお薬で、いわば「殺虫剤」と同じです。傷口にも当然、ダメージを与え、結果として傷の治りを悪くしてしまいます。

洗浄・清潔 皮膚の雑菌から傷口を守るためには物理的に洗い流してあげることが有効です。日本の水道水はとってもキレイですので、ご自宅でもできれば毎日、傷口を水洗いしてください。流水を直接、傷口にあてて、傷口の周りの皮膚を軽くなでて洗い流します。消毒は不要です。ゴシゴシこすってしまうと、それもまた傷口へのダメージとなりますので軽くなでるくらいで大丈夫です。洗い終わったら清潔なタオルやガーゼで水気をふき取り、滲出液（傷口からジワジワ液体が出てくること）がなければそのまま何も保護剤を貼らなくても構いませんし、少し心配であれば市販されている絆創膏やガーゼで傷口を保護してもらっても構いません。

絆創膏を貼ったままシャワーを浴びたりお風呂に入りますと水を含んだ絆創膏の中で雑菌が繁殖してしまいますので入浴する場合には必ず絆創膏は剥がしてください。

抗生物質 そして創が化膿しないために抗生物質を処方することがありますが、抗生物質は体に必要な常在菌にもダメージを与えてしまうため、本当に抗生物質が必要かどうかはそのときの創の状態です。医師が判断しています。

被覆材 表皮剥離している創や、滲出液が多い場合には皮膚の代わりにしてくれる被覆材を貼付するのも有効です。滲出液が被覆材から漏れてきたら交換時期です。受傷初期は滲出液も多いので交換頻度も多くなります。

止血 傷口が赤く腫れ上がってきたり、血が止まらなかつたり、濁った膿（うみ）がでてくるようなことがあれば予約前でも連絡の上、受診を検討ください。

血が止まらない場合、止血処置として最も有効なのは「圧迫」です。出ているところをピンポイントでギュッと押さえるようにしてください。途中で気になって圧迫を緩めてしまうと止血効果がリセットされてしまいますので、止血したいときには 20～30 分は圧迫し続けるようにしてください。それでも止血できない場合は病院受診しましょう。

河北総合病院 外科・救急外来

代表：03-3339-2121

診察日 年 月 日

担当医師：